

「地域を愛し、自分で考え、自分で行動する子ども」を育てる コミュニティ・スクール 通信

令和2年度 第10号 3月3日

日の里学園コーディネーター 北岡 隆博



日の里学園が文部科学大臣表彰

2月25日（木）に、日の里学園運営協議会が、「地域学校協働活動」推進で、文部科学大臣表彰を受けました。

日の里学園運営協議会とは、コミュニティ・スクール（CS）を進めている日の里学園の運営支援や、地域を元気にする活動等について協議を行う組織で、現在14人の委員で構成され、年間6回の協議会を行っています。

また、「地域学校協働活動」とは、社会総がかりで子どもたちの学びや成長を支えるために、地域の高齢者、大人、学生、保護者などの住民や、コミセン（公民館）、民間企業などが学校と連携・協働して実施する様々な活動のことです。

日の里学園は、平成18年度から15年間進めてきた小中一貫教育で、学校間の連携・協力体制が整っていますが、それに加え令和元年度からCSを進めています。CSの学園運営協議会では、「地域を愛し、自分で考え、自分で行動する子どもの育成」をめざし、地域の「人・もの・こと」と積極的に関わる学習について、検討したり評価したりしています。そのような学園運営協議会の活動が、全国のモデル的な実践であると評価されて、この度の大臣表彰につながりました。

オンデマンドバス運行開始記念式典

2月22日（月）に、日の里のオンデマンドバス「のるーと」運行開始式典が、日の里「さとづくり48」で行われました。

式典の中で、日の里東小学校の6年生の児童たちは、地域の将来を担う世代の代表として、これまで学習してきた「SDGs 17の目標」をもとに、全員で「自分たちにできること」や「日の里のよさ」、「バスへの期待」を発表しました。

